

【ご挨拶】

シラスの会では、日本の良き精神、伝統、文化を次世代に継承する為に2012年に活動を開始しました。我が国には華道、茶道、柔道、剣道、書道、武士道、様々な道が存在します。その道はどこに通じるのか？花を美しく活ける、お茶を美味しく点てるのが華道、茶道ではありません。神様のような振る舞いで花を活ける、お茶を点てる。その道は神の道に通じています。

我が国の神は八百万の神と言い、全知全能ではなく、足りないところを批判せず、互いがその足りないところを補いながらこの自然界を守っています。その考えは現代の私達に大きな影響を与え、現代の日本人らしさを作ってきました。神様が生きる道を我々の理想の姿と重ね、その神に感謝することで集落を守ってきました。しかし、現代の私達は神社がなんのためにあるのか？その神社にどんな神様が祀られているのか？また、この国がいつでき、誰が作り、どのようにしてできたのか？語るができる人はほとんどいません。この危機的状況を打開し、次世代にこの素晴らしい日本の環境を継承する必要があります。しかし、その素晴らしい日本人らしさを学ぶところもなく、教える人もいない。

そこで、この日本人らしさを学べる場所として始めたのが神道の心を伝えるの活動です。2017年より、全国各地で、その素晴らしい日本人らしさを伝える講話、講座を開始しました。古事記を通して道徳、華道、茶道など、和の文化や思想を学べる社小舎を作っていきます。

私たちが住んでいる家に木材があるのは、私達が植えた木ではありません。祖先からの頂き物です。このように、私達が頂いたこの素晴らしい環境を次世代に渡すために今の私達に何ができるのか？真剣に考えなければ、私達はきっと次世代から『あなた達のせいでこんな日本になった』と言われる世代になります。

神話を失った国は100年で滅びると言われています。残すところ20数年です。私達はたまたまこの時代に生まれたのではありません。この時代にできることを行うために生まれたのです。自分さえ良ければ、家族さえ良ければ、自分の国さえ良ければ…もし、神社の神主が自分の事だけ祈ってたとしたら、この国はこんなに長く続いていでしょうか？きっと続いていないはずですが、しかし、神社の神主が自分の事だけ祈ることと、この国が長く続かない事となんの関係があるのでしょうか？何もありません。しかし、皆様はなんとなく、自分の事だけ考えていたら、国も組織も長く続かないと思ったはずですが、そのなんとなくを明らかにすること。それが皆様の芯となって、堂々と生きられるようになるのです。国がどうの、組織がどうのと言う前に、まずは自分が堂々と生きられる芯を持つことです。その姿が模範となり、必ずあなたから学びたくなる人が現れます。そんな人達と共に学ぶ社小舎設立に向けて共に力を合わせ、次世代にこの素晴らしい日本人らしさを伝えていきましょう。

【活動目的】

支部の活動は【八十八の志】に書かれた事を学び、自らが答えを見つけ、それぞれの立場や成長の過程を踏まえた考え方を身につける事でより良い社会を作る様に努めていきます。

【支部活動】

日常の暮らしの中で実践する為の勉強会を月に一度開催し、参加者としっかりと交流しシラス国の実践の場として活動して頂きます。

【普及活動】

古事記を学び、実践し、模範となれば必ずあなたから学びたいという者が現れます。伝えるとは言葉だけではなく、その姿で伝えます。

始めは一滴の水滴でも、その波紋は広がり、より良い社会へ繋がっていきます。

人ひとりの功績はいずれ風化し色褪せます。しかし、人が集う環境さえ作ることができれば、それが習慣となり、伝統が出来上がります。そこに様々な文化が生まれ、平和と繁栄を齎すことが出来ます。私達はその素晴らしい環境作りを行なっているのです。

それこそがシラス国なのです。

【活動指針】

シラスの会会員になると、日本の精神、伝統、文化など、日本人としての誇りを次世代に継承する為に学ぶことができます。また、同じ志を持つ者と縁を結び、その輪を広げていく活動を行います。

定期的に行われる講話には親子で参加することも可能です。

支部の活動は毎月1回、年12回、勉強会開催。

【八十八の志】の中からご自身の琴線に触れた項目を選択して、スピーチを頂き、皆様とディスカッションを行います。

支部自主開催として、交流会、ランチ会、女子会、子ども古事記プロジェクトなども行っております。

シテスの会

お申し込み用紙

支部

お名前	ふりがな	性別
		男性・女性
ご住所	〒	
	都道 府県	
電話番号	—	—
E-mail アドレス		
生年月日	明大 昭平	年 月 日
講師レベル (重複可)	インストラクター・リーディング認定講師 準公認講師・公認講師・守護神鑑定師	
メッセージ		